

授業のヒント

じゅ ぎょう

今回は絵を見て会話や話をつくる練習をしました。
今回と次回は顔の部分の名前を使った慣用句をとりあげます。

テーマ 慣用句を覚えよう(1)

かん よう 句

目的・教えること もくてき おし
顔の部分の名前を使った慣用句の意味と使い方 かお ぶぶん なまえ つか かんようく いみ つか かた
学習者のタイプ がくしゅうしゃ
初級後半から中級 しょきゅうこうはん ちゅうきゅう
クラスの数 にんすう
一人～何人でも ひとり なんにん
準備するもの じゅんび
顔の絵など かお え

慣用句とは、ことばとことばを組み合わせて、それ全体で特別な意味をあらわす連語や文のことです。例えば、「腹を立てる」ということばは、「怒る」という意味で使われます。「骨が折れる」ということばは、本当にけがをして骨が折れた時にも使いますが、「苦労する、大変だ」という意味で使われることもあります。

慣用句を覚えることは、日本語の表現を豊かにするだけでなく、日本語のおもしろさを体験することにもなります。また、みなさんの国の慣用句とくらべてみれば、文化の違いの勉強にもなるでしょう。

今回は特に、顔の部分の名前を使った慣用句を取り上げて、いろいろな形式の練習問題を紹介します。日本語には他にも体の部分や動物や植物などの名前を使った慣用句がたくさんありますので、参考文献を見てください。

ここで取り上げる七つの慣用句

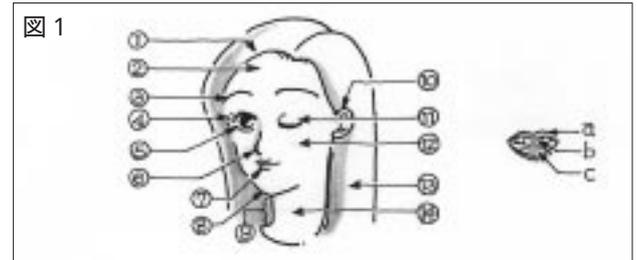
1. 耳が遠い
2. 鼻が高い
3. 目をめすむ
4. 口が軽い
5. 歯が立たない
6. 首にする
7. あごで使う

教え方(練習の方法)

練習の前に：顔の中の部分を表わすことばを確認しましょう。

図1のような顔の絵を用意して、顔の部分の名前を日

本語で言わせたり、書かせたりします。



初級で初めて顔の部分の名前を教えた時に「ふくわらい」のゲームを使った人は、それをもう一度利用するのもいいでしょう。



(注)「ふくわらい」：タオルなどで目が見えないようにして、顔の絵の紙の上に目や鼻、口などの部分を置いて顔を作るゲーム。お正月によく遊ぶ。

顔の部分の名前を確認したら、次のような練習問題を出してみましょう。(練習問題の答えは次ページの【練習問題の答え】を見てください。)

・練習問題A <意味の推測>

次の慣用句はどんな意味でしょうか。例文を読んで、意味を考えましょう。

1. 祖父は耳が遠いので、私はいつも大きい声で話してあげます。
2. 娘さんは勉強もスポーツもよくできるので、ご両親は鼻が高いでしょう。
3. 私の弟はよく母の目をめすんでテレビ・ゲームをしています。
4. あの人は口が軽いので、秘密にしていることを言わない方がいいですよ。
5. この問題は難しくすぎて、私には歯が立ちません。
6. 社長は、会社のお金をめすんだ社員を首にしました。
7. あの人は人をあごで使うので、もういっしょに仕事をしたくありません。

・練習問題B <意味の確認>

次の慣用句は他の日本語ではどのように言うことができるでしょうか。

左の慣用句と右の表現で同じ意味のものを線でむすんでください。

- | | | |
|-----------|---|--------------------------|
| 1. 耳が遠い | ・ | a. 他人に見つけられないように何かをする |
| 2. 鼻が高い | ・ | b. 仕事をやめさせる |
| 3. 目をぬすむ | ・ | c. いばって命令する |
| 4. 口が軽い | ・ | d. 耳が悪くなってよく聞くことができない |
| 5. 歯が立たない | ・ | e. 強かったり難しかったりしてとてもかなわない |
| 6. 首にする | ・ | f. 自慢できることがあって、得意になる |
| 7. あごで使う | ・ | g. 言っではいけないことを話してしまう |

・練習問題C <慣用句の穴埋め>

次の文を読んで、()の中に適当な顔の部分の名前を入れてください。

- ()が軽い人は他人に信用されません。
- 彼は年上の社員も後輩も()で使っています。
- 人質は犯人の()をぬすんで、逃げました。
- これは、()が遠い人が小さい音を聞きやすくする機械です。
- 不況になって、経営者はたくさんの人を()にしなければならなくなりました。
- 先生は、「学生がスピーチコンテストで優勝したので()が高いです」と言っています。
- 私達のチームは大学生のチームにぜんぜん()が立たなくて、0対10で負けました。

上の三つの練習問題はどの順番で使ってもかまいません。練習問題Bのaからgの部分は、学習者の国のことばを使って書きかえてもいいと思います。

【練習問題の答え】

A. Bの答えを見てください。

B. 1 - d, 2 - f, 3 - a, 4 - g, 5 - e, 6 - b, 7 - c

C. 1. 口、2. あご、3. 目、4. 耳、5. 首、6. 鼻、7. 歯

参考文献

- 『豊富な文例つき 分野別・日本語の慣用表現』(1992) 小笠原信之著 専門教育出版
- 『すぐに使える実践日本語シリーズ おぼえて便利な慣用句(初・中級)』(1994) 田仲正江、間柄奈保子共著 専門教育出版
- 『まんがで学習シリーズ おぼえておきたいきまりごとば(慣用句)事典』(1992) 内田玉男著、村石昭三監修 あかね書房発行
- 『言いたい内容から逆引きできる 例解慣用句辞典』(1992) 井上宗雄監修 創拓社発行
- 『日本語教育事典』(1982) 日本語教育学会編、小川芳男、林大、他編集 大修館書店

今回は顔の部分の名前を使った慣用句の練習を考えました。ただ慣用句を丸暗記させるだけでなく、いろいろな方法を使って練習させることを考えてみてください。

次回は、絵を使った慣用句の練習を紹介します。さらに、いろいろな国の慣用句を紹介して、日本語と比べてみます。

それでは、また。

このコーナーの担当者：久保田美子、八田直美(日本語国際センター専任講師)

